



6月号 令和4年5月31日発行

蓑田小だより

横浜市都筑区蓑田南町694番地 [TEL911-0149]
[<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/>]



気付きを大切にして

副校長 伊瀬知 大記

先週、6年生が日光修学旅行に行って来ました。2日間とも天気にも恵まれ、全員無事に参加できたことが何よりでした。今年の6年生は、小学校での泊を伴う校外学習は最初で最後ということもあり、何としてでも実施したいという思いがありましたので、本当によかったです。出発式で見られた、子どもたちのこの日を心待ちにしていた表情がとても印象的でした。また、解散式での少し日焼けして疲れも見える表情からも、この修学旅行が充実したものになったということが感じ取られました。普段の学校生活の中では味わえない非日常の体験を通して、様々な学びがあったことと思います。

非日常の体験の中で学ぶことも多いですが、子どもたちは日常の学校生活の中でも様々なことを学んでいます。毎朝、学校の前の横断歩道での見守りを終え、昇降口の方に戻ってくると、池の周りで1年生が自分の植木鉢のアサガオに水やりをしています。子どもたちは水やりをしながら、アサガオの様子をよく観察し、気付いたことを私に教えてくれます。

「僕のアサガオは、芽が5つ出たよ。昨日までは、4つだったけれど、今日新しいのが出たんだよ。」

「この葉っぱには、種みたいなのが付いているんだよ。」

「最初は葉っぱが2枚だったけれど、4枚に増えたんだよ。」

また、白門の方に行くと、今度は2年生が自分の植木鉢で育てている野菜に水やりをしています。2年生は一人ひとりが自分で選んだ野菜を育てています。野菜を見せながら、話してくれます。

「僕のはまだけど、〇〇さんのは花が咲いたんだよ。僕のはもうすぐだと思うよ。」

「〇〇さんのはナスだから、僕のミニトマトとは茎の色が違うんだよ。」

「朝雨が降って、土が湿っているから、今は水やりしなくても大丈夫だよ。」

子どもたちは、活動や体験を通して、様々なことに気付き、それを基に考えたり表現したりしながら、対象に主体的に関わっていくようになります。低学年の生活科の学習では、一人ひとりに生まれた気付きは、吟味されたり一般化されたりしていないものの、確かな認識へとつながるもので、知識及び技能の基礎として大切なものです。無自覚だった気付きが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられたり、対象のみならず自分自身についての気付きが生まれたりすることを、気付きの質が高まったといいます。いかに子どもたちの気付きの質を高め、確かな認識へとつなげ、意欲的に生活や学習に向かえるような授業を展開できるかが、教師の腕の見せ所になります。

学年や教科、学習内容等が違っていても、子どもたちの学びの質を高めるために授業を工夫するという点は共通して大事にしたいところです。日常の学校生活や授業を通して子どもたちの学びの質を高めていけるよう、引き続き学校全体で取り組んでいきたいと思ひます。

